

11月18日こども祝福式の祈りのために

おとなから見ると、こどもは成長過程にある未熟な存在なのではないでしょうか？ もちろんおとなの守りを必要とする弱い存在と言うことも出来ると思いますが、決して軽んじられる存在ではありません。それどころか、「神の国」の尺度で見ると、その中心にいるのが「こども」なのだと思います。こどもはいのちそのものを生きています。自分の弱さを知っています。それゆえ「受け入れる心」を持っています。そして、無条件に、ひとを、いきものを、自然を愛します。こどもの存在は奇跡です。この世からこどもがいなくなったら、どうなってしまうのでしょうか？

神様は「こども」をまるごと祝福されます。この時、おとなは、こどもと一緒に生きていく心を新しくされたいと思います。そこに本当の意味の「教会」があると思います。

(丸山 勉)

